

第3B(小) 分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 極小規模校における教育環境整備に関する教頭の役割

協議の柱 ○事務職員未配置校の教頭として、小規模校の組織体制をどう効果的に構築していけばよいか。

○働き方改革を進めるにあたり、いかに行事等の取組を精選していけばよいか。

提言者 佐伯市立米水津小学校 野々下 徹

1 質 疑

- (1) Q 職員の年齢構成はどのようになっているか。
A 50代が2人、40代が1人、臨時職員が1人(40代)である。
- (2) Q 青山小の学級編成が、1・2年生が単式で、3・4年と5・6年が複式になっている理由。
A 低学年のうちに単学級で基礎学力を定着させるために、1・2年生を単式にしている。
- (3) Q 学校事務分担表について詳しく教えてほしい。
A 教頭と学校主事の分担や学校主事の役割、学校主事から担当者までの文書の流れや文書の保管について明記し、共通理解を図った。
- (4) Q 地域の行事はなかなか切りにくいのが、行事の精選はどのようにしているのか。
A 切りたくても切れないことが多いが、学校の総合的学習でしていた「杖踊り」の練習を地域でもらうようお願いした。地域に返せるものは返すようにした。
- (5) Q 勤務時間はどのようになっているか。
A 極小規模校のよきで、早めに退庁できている。行事等で遅くなることもあるが、大体17時すぎには退庁できている。

2 協 議

- (1) 事務職員未配置校の組織体制については、事務仕事の手順を示して個人が責任をもつように働きかけることが必要。支援センターの有効活用、学校主事との役割分担等で、教頭の負担軽減を図るようにする。
- (2) 機能的な学校組織の構築の取組で、学校運営計画表はいい取り組みである。「見える化」が一つのポイントになっている。職員が見通しを持てるし、職員間の協力や支え合いにもつながる。
- (3) 地域や保護者との連携については、コミュニティスクールが重要になってくる。メンバーの人選がうまくいけば、話し合いの中で、協力・分担・行事の精選がスムーズにできる。
- (4) 働き方改革を進める上での行事の精選については、管理職の役割が大きい。地域からの依頼についても教育課程を優先し、無理なものは断るようになっていく。教職員の意識改革も必要。去年こうだから今年もという意識から改革していく。夏休みの研修の精選なども行っていく必要がある。

3 指導助言

- (1) 小規模校の現実を受け止めて課題解決を図っている。地域・家庭との連携、学校教育目標の具現化等、課題を分析して取り組んでいる。主要主任を指導し、組織的に動くことが大切。4点セット等のツールをうまく利用し、組織的に実践したことを学期毎に見直すPDCAサイクルがこのレポートの随所に見られる。
- (2) 事務職員未配置校においては、事務仕事を組織的に分担してやる校内体制づくりが必要。文書整理やPTA作業等は、教職員に分担する。教頭は事務職員ではないという意識を持たせ、教頭に仕事が集中するのを防ぐ。行事等の精選は年度始めに必ず行う。
- (3) 地域・保護者の声を取り入れるのがCS（コミュニティスクール）だが、学校を批判する場になってはよくない。校長が、CSの目的を地域・保護者に理解してもらうようにする。これは校長の責任。地域を学校の応援隊にしていく。